

## 事業内容

### 1. 演示機器定期整備

#### (1) 展示品保険料

展示場における展示品への保険の付保を行った。

実施期間：平成23年4月1日～平成24年3月31日

### 2. 展示品保守業務委託

展示品及び演示機器の破損や故障に対応し、円滑な展示場運営を図るため展示場保守管理業務を専門業者に委託した。

当該業務は展示場における日常の保守管理全般を行うもので、主たる業務は展示物の清掃等の定型的作業から演示機器の修理調整や模型の修理、説明パネルの修復など多岐にわたるため、専従技術員2名を常駐させ実施した。

特に、動態展示物の分解修理や展示物支持架台の補強といった機械工作、大工仕事等の営繕作業、電子機器類の修理・調整等は高い専門性を必要とするため、正技術員2名（休館日を除く）には専門性の高い作業を主体に、また副技術員（週2日勤務）には管球類の交換、展示物の清掃などの一般的作業を主体に業務を実施した。

契約日：平成23年4月1日

実施期間：平成23年4月1日～平成23年9月30日

完了日：平成23年9月30日

### 3. ボランティア活動

船の科学館では、博物館活動におけるボランティアの採用を16年前の平成8年より開始し、今や博物館活動を支える重要な存在になりつつある。

組織としては、「東友会」（旧東海銀行OBで組織）4名、「海洋会」（旧東京商船大学OBで組織）29名、「ザ・ロープ」（木製帆船模型の同好会）39名、「ソルティ・フレンズ」（セイルトレーニング普及の同好会）23名、「“宗谷”ボランティア」（元“宗谷”乗組員で組織）7名、「チーム・ニシムラ」（東京海洋大学ヨット部OBで組織）50名などがあり、本年度の登録人数は総数215名、延べ活動人数は1,038名に達した。

活動としては、展示場の案内とミュージアムツアー、海や船に関するレファレンスとギャラリートーク、講談「南極第一次観測物語」の実施、帆船模型工作教室、飾り毛布制作実演、江戸木造和船細工展示、親子で学ぶ海と船の博士塾他、行催事開催時の補助業務等を行った。

実施期間：平成23年4月1日～平成24年3月31日（休館日を除く）

完了日：平成24年3月31日

#### 4. 博物館施設の運用保守管理

##### (1) 船の科学館施設の運用保守管理

船の科学館施設については、平成23年9月30日までの本館開館期間中は、博物館事業を円滑に運営するとともに、来館者への快適な博物館施設を提供するため、適切な保守管理を実施した。10月1日以降は、本館建物を収蔵保管・研究施設及び事務所として使用したため、必要最小限の運用・保守管理を実施した。

契約日：平成23年4月1日

実施期間：平成23年4月1日～平成24年3月31日

完了日：平成24年3月31日

##### (2) 昇降機保守点検

昇降機については、平成23年9月30日までの本館開館期間中は、本館エレベーターについては月2回、羊蹄丸のエレベーター及びエスカレーターについては月1回の定期点検を実施するとともに、不具合等緊急時の対応など、博物館運営に支障のないよう適正な設備管理を行った。10月1日以降については、本館エレベーターは建物管理上必要な最小限の台数で運用(2台)することとし、羊蹄丸については展示終了のため契約を解除した。

契約日：平成23年4月1日

実施期間：平成23年4月1日～平成24年3月31日

完了日：平成24年3月31日

##### (3) 消防設備点検

消防設備については、来館者の安全確保のために必要な点検作業を実施したほか、関連設備の軽度な不具合等は、その都度点検調整を実施するなど、博物館施設の適正な安全環境の維持に努めた。

契約日：平成23年4月1日

実施期間：平成23年4月1日～平成24年3月31日

完了日：平成24年3月31日

##### (4) ビル管理システム保守点検

ビル管理システムについては、共同溝及び羊蹄丸並びに羊蹄丸管理棟を管理するための監視・制御システムで平成23年9月30日までは保守点検

業務を委託し、博物館運営に支障のないよう適正な設備管理を行った。

契約日：平成23年4月1日

実施期間：平成23年4月1日～平成23年9月30日

完了日：平成23年9月30日

#### (5)自動扉保守点検

自動扉については、平成23年9月30日までの間、来館者の安全確保を目的に定期点検を実施した。

契約日：平成23年4月1日

実施期間：平成23年4月1日～平成23年9月30日

完了日：平成23年9月30日

#### (6)ごみ管路収集設備保守点検

ごみ管路収集設備については、平成23年9月30日までの間、定期点検を実施し、博物館運営に支障のないよう適正な設備管理を行った。

契約日：平成23年4月1日

実施期間：平成23年4月1日～平成23年9月30日

完了日：平成23年9月30日

#### (7)羊蹄丸可動歩廊点検

羊蹄丸可動歩廊については、平成23年9月30日までの間、定期点検を実施し、羊蹄丸乗降者の安全確保を行った。

契約日：平成23年4月1日

実施期間：平成23年4月1日～平成23年9月30日

完了日：平成23年9月30日

#### (8)電話交換機保守点検

電話交換機については、年間契約に基づき、定期点検を毎月実施するとともに、軽度の制御ソフト変更をその都度実施するなど博物館運営に支障のないよう適正な設備管理を行った。

契約日：平成23年4月1日

実施期間：平成23年4月1日～平成24年3月31日

完了日：平成24年3月31日

#### (9)玄関シャッター点検

玄関シャッターについては、平成23年9月30日までの間、定期点検

を実施した他、不具合時の対応を含め円滑な博物館運営のため適正な設備管理を行った。

契約日：平成23年4月1日

実施期間：平成23年4月1日～平成23年9月30日

完了日：平成23年9月30日

#### (10)受変電設備点検

受変電設備については、年末休館日に全館停電の下で本館受変電設備特高圧部及び同低圧部の法定点検整備を行った。また、停電に合わせた不具合箇所の調査、補修等についても点検作業と合わせて本事業内業務とし整備するなど本館建物の維持のための適正な設備管理に努めた。

船の科学館受変電設備定期点検工事〔特高圧部及び低圧部〕

契約日：平成23年12月13日

実施日：平成23年12月28日

完了日：平成23年12月28日

#### 5. 図書室等空調機整備

船の科学館本館展示場の公開休止に伴い、地域冷暖房システムによる冷温水の供給を受けての全館空調を取り止めたことから、今後の事業活動のために必要最低限の図書室、事務所、会議室、施設管理の為の中央監視室、警備室について、個別の空調を行う必要が生じたことにより、空調機（パッケージエアコン）の新規設置及び既存空調機の移設工事を実施した。

契約日：平成23年11月4日

工期：平成23年11月6日～平成23年11月30日

完了日：平成23年11月30日

#### 6. 収蔵品管理用機材・ソフトの整備

収蔵品管理用機材・ソフトの整備については、船の科学館で所蔵する展示資料約1万5千点、図書資料9万3千点の総計約10万8千点（平成23年度末現在）の資料について、老朽化した資料管理システムをソフトウェア及びハードウェアともに最新システムに更新した。

収蔵資料管理システムソフトウェア更新業務

契約日：平成24年7月18日

実施期間：平成24年7月18日～平成24年9月30日

完了日：平成24年9月30日

## 収蔵資料監視システムハードウェア更新業務

契約日：平成24年8月18日

実施期間：平成24年8月18日～平成24年9月30日

完了日：平成24年9月30日

## 事業目標の達成状況

### 1. 演示機器定期整備

当館所蔵品に対する動産総合保険の付保により、火災や盗難により毀損することのリスクを軽減できた。

### 2. 展示品保守業務委託

博物館展示機器の保守業務を担当する要員を毎日2名（休館日を除く）配置し、業務を委託したことにより、展示機器類の保守及び不具合等に対する迅速な対応ができ、来館者への快適な見学環境を提供することができた。

### 3. ボランティア活動

ボランティア活動の成果としては、ミュージアムツアー、ギャラリートーク、講談、帆船模型工作教室、飾り毛布制作実演、江戸木造和船細工展示、親子で学ぶ海と船の博士塾への行催事参加者総計41,929名にも達し、参加された方々への海事・海洋思想の普及啓発に大きく貢献したと共に、船の科学館の博物館活動にも大きく貢献した。

### 4. 博物館施設の運用保守管理

船の科学館施設の運用保守管理業務を24時間体制でビル管理会社に委託するとともに、諸設備の法定点検、定期保守点検等を設備メーカー、専門保守管理会社と契約委託し、健全な施設環境を確保することにより、来館者に対し適正かつ快適な見学空間を提供することができた。

### 5. 図書室等空調機整備

空調機（パッケージエアコン）の新規設置及び既存空調機の移設工事を実施したことにより、船の科学館本館展示場の公開休止後における財団業務を円滑に実施することができた。

### 6. 収蔵品管理用機材・ソフトの整備

収蔵品管理用機材・ソフトの整備の成果としては、老朽化した資料管理シ

システムをソフトウェア及びハードウェアともに最新のシステムに更新できたことにより、システムの信頼性・能力が大幅に向上し管理運用がより適切に行えるようになった。また、外部への収蔵品の情報開示もより効果的に行えるようになり、当館所蔵資料をより広く知っていただくと共に効果的に活用いただく機会を増やすことが出来るようになった。